

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリス		
事業所名	グループホーム パラディーソ神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でご過ごせるような環境にしている。
一人一人のペースで生活して頂いている。
コロナ禍において入居者様とご家族様の距離が遠くならないようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両ユニットの管理者は、利用者に我が家のように暮らしてほしいと願っていて、毎日の対応やケアに工夫を凝らしている。自由な起床時間や朝食のメニューの希望もできるだけ叶えていて、その人の生活スタイルに合わせてるようにしている。コロナ禍で家族との関係が疎遠にならないように、ZOOMや窓越し面会だけでなく、SNSを活用してタイムリーな情報を伝えることが、安心感に繋がりは喜ばれている。重度化により入院された方がいて、「グループホームで過ごしたい」という要望があり、それを受け入れて、家族とともに職員が最期までケアしたこともあった。誕生日には、利用者の食べたいものを聞き取り、職員の手作りのお寿司やケーキだけでなく、家族からお祝いのケーキが届き、家庭的な雰囲気の中で、盛大に言祝いだの様子が写真から窺えた。排泄の失敗に気づいた職員は、「ちょっと行こう」とさりげない言葉掛けをしたら、利用者は恥ずかしがったので、「それが俺の仕事だから、大丈夫だよ」と囁いたら、「ほな、してもらわなきゃいけないが・・・」という会話が聞こえてきて、家族のような雰囲気が施設を包み込み、醸し出していた。職員の朝の申し送りはリビングで行っていて、その様子は和気藹々として心が通っていた。その雰囲気が利用者にも派生し、利用者同士が笑顔で会話を楽しむ雰囲気が語らいていて、様子も窺えた。管理者の熱い思いが、職員や利用者にも伝わり、心に寄り添う介護ができていて、新たな我が家となったであろうということは、言うまでもない。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。運営委員会を設ける。	理念は事務所に掲示していて、月1回の職員会議で確認している。数ヶ月前に運営委員会を立ち上げ、施設をよりよくするために職員で話し合った。今月は「節電・節約」を目標としてチャレンジしている。新入職者には、本部研修の際に理念に触れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度。コロナ禍で町内イベントはほぼ中止されている。	町内会には加入していて、回覧板で情報を得たり、町内清掃に参加したりしている。町内会長や会計係には、直接神宮寺新聞を渡すことで情報の提供もしている。散歩中に幼稚園児と会った際には、笑顔で挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。 現在は休止状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になってからは書面会議のみだがお互いの取り組みを参考にしサービスの向上に活かしている。	会議には、地域包括支援センター、事業者指導課、家族代表、他のGH職員、町内会長が参加している。現在は書面開催で議事録と神宮寺新聞を郵送したり、直接ポストへ投函したりしている。コロナの状況や行事・イベントの結果報告をして、よく頑張っていると褒めの言葉を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は両ユニットの管理者。書類の内容の確認をしたら親切丁寧に教えてくれた。抗原検査キットを取りに行くこともあり face to face の関係が出来る。外部の研修案内やコロナ対策、病気に関する情報提供も頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	身体拘束はしていない。研修では動画を視聴して、適切なケアができていないか、職員全員で意見を出し合うことで再確認ができた。スピーチロックが出た場合は、職員間で注意し合える関係もできている。「ちょっと待って」じゃなくて、「すぐに行くから」と言い直すようにしている。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やグループ全体研修などで勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。今後も必要とする方が出てくるかもしれないので制度について理解できる研修を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族からの意見は、SNSを通して聞くようにしている。SNSで撮った写真を家族に送ったら、様子がわかるので喜んで頂けた。コロナの状況をみて面会を再開するようになった。利用者から物品を購入したいという要望が上がり、家族の方へ伝えていて、利用者の些細な仕草や行動からも汲み取るようにしている。	目安箱を工夫して設置し、意見を吸い上げてみてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	年2回、両ユニットの管理者が面談をしている。職員とは、何でも言える関係ができていますので、職員会議でも意見が出やすい。消毒スプレーの数が少ないという意見が出て、数を増やしたことでコロナ対策にも繋がった。評価中にリビングでは、職員同士がお互いの意見を出し合いながら、申し送りをしている姿を評価員は目の当たりにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切に、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次のご家族へホームでの様子を電話で報告している。LINEも活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干し・たたみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会は継続しつつ状況を見ながら対面の面会を調整している。	訪問美容師の方が馴染みの関係となり、自分が作った作品をあげたら喜んで頂けた。リビングのソファが馴染みの場所となっていて、ゆったり寛いでいる方もいる。ZOOMや窓越し面会を実施していて、馴染みの関係継続ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら関わりを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられるよう努め、会話で気になったことは記録に残し、職員で共有している。	表情や仕草だけでなく、さり気ない日常会話からも読み取るようにしている。利用者の気持ちに合わせて、職員を変えて対応したり、決して無理強いはいないように配慮している。申し送りと連絡ノートを活用して、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院先の病院や通われていた同業者からも情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ半年毎に見直している。プラン作成時には、家族や本人の希望を聞くだけでなく、ドクターに相談することもある。リハビリがしたいという方には、散歩を多くするようにし、できるだけ部屋から出てほしい方には、リビングで過ごすようにして、プランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りで情報共有をしている。連絡ノートも活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの送迎・リハパン・トロミなどの買い物も職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。	かかりつけ医は、協力医に全員転医されている。24時間対応なので、安心して任せることができている。2名の診察医がいて、月1～2回の往診がある。週1回訪問歯科が来てくれて、口腔ケアをして頂いている。他科へは、常駐する看護師が連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前に電話でカンファレンスしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	看取りは実施していて、数名の方を看取った経験がある。入院していた方の希望により、施設に戻って来てケアをしたこともあった。、家族の方は、24時間対応も可能にしている、最期を無事に看取ることができたとの感謝の言葉を頂いた。職員会議にてデスクカンファレンスをして、意見を出し合っている。入居時に重度化した場合の対応についての同意も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議などで話し合っているが定期的には出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に職員の防災意識を高めている。年2回訓練を行っている。	年2回、夜間設定で火災訓練を行った。管理者は防災アプリにて、タイムリーな情報を得ることができている。連絡網は、電話の傍や業務日誌に挟んでいるので、すぐに取り出すことができる。リビングに、避難経路とマニュアルを掲示している。備蓄は、水を2～3日分、各階の倉庫に保管していて、冷蔵庫の食材がいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみたいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時も言葉に気を付け誘導を行っている。	呼称は、基本苗字に「さん」を付け。同姓の方には、家族の同意の上で、下の名前に「さん」付けで呼んでいる。入室時には、ノックや本人の了承を得てから入るようにしている。排泄失敗時には、さりげなく耳元で「ちょっと行こう～」や「確認させてもらっている」と言葉を掛けて自尊心が傷つかないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	お米は施設で炊いていて、昼と夜がケイタリング。利用者からは「美味しいです」の一言が聞け、残食もほとんどない。箸、茶碗、コップは馴染みの物を使用している。誕生日の際には、お寿司や手作りケーキを振舞ったら喜んで頂けた。おやつ作りでは、ホートケーキやぜんざいを作った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し、栄養士とも話し合っってバランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせて食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのデータからトイレの声掛けを行ったり介助したりしている	トイレは各居室にある。排泄チェック表を活用して、タイミングよく言葉かけをすることで、失敗が減った。トイレというワードを使わず、「ちょっと歩こう」と言葉掛けをすることでスムーズな誘導ができています。排泄失敗時には、自尊心を傷つけないような言葉掛けをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	入浴は週2回で、同性介助をしている。入浴剤の使用や季節湯としてゆず湯の提供もある。拒否される方へは、人や日時を変えたり、「暖かいところへ行こう」や「ニューヨークへ行こう」との言葉を掛けるように工夫している。シャワー浴や足浴の提供もあり、脱衣所の温度調整もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りで譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している。	近隣の散歩やドライブに出掛け、春にはお花見に行った。正月には、神宮寺神社を奉り、初詣やおみくじを引くことで外出気分が味わえた。テラスの花に水やりをしたり、利用者同士で仲良く洗濯物を置んだりしている。外出に変わるレクも取り入れていて、言葉遊びや体操を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有時間は常に清潔を心掛けている。季節に応じた飾り付けなどで利用者様に今の季節を感じていただいている。一緒に飾りを作ることもある。	リビングでは、新聞、刺繍、貼り絵、ぬいぐるみ制作をして自分が好きなことをして過ごしている。気候のいい日にはテラスに出て運動をしたり、会話を楽しんだりしてる。壁面は利用者と職員が作った作品を貼ることで、季節感が味わえるようしている。節分には鬼に扮した利用者と豆まきを楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考えて配慮している。	ベッド、クローゼット、トイレ、エアコンが備え付け。裁縫が好きな方の部屋は、手作りのチュールリップの作品が数多く並んでいた。家族やひ孫の写真を飾り、父の日や母の日のメッセージカードを大切に保管することで、家族を身近に感じることができている。ひ孫がプレゼントしてくれたメッセージプレートを大切に飾ってある部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリス		
事業所名	グループホーム パラディーソ神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気でご過ごせるような環境にしている。 一人一人のペースで生活して頂いている。 コロナ禍において入居者様とご家族様の距離が遠くならないようにしている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>両ユニットの管理者は、利用者に我が家のように暮らしてほしいと願っていて、毎日の対応やケアに工夫を凝らしている。自由な起床時間や朝食のメニューの希望もできるだけ叶えていて、その人の生活スタイルに合わせてるようにしている。コロナ禍で家族との関係が疎遠にならないように、ZOOMや窓越し面会だけでなく、SNSを活用してタイムリーな情報を伝えることが、安心感に繋がりは喜ばれている。重度化により入院された方がいて、「グループホームで過ごしたい」という要望があり、それを受け入れて、家族とともに職員が最期までケアしたこともあった。誕生日には、利用者の食べたいものを聞き取り、職員の手作りのお寿司やケーキだけでなく、家族からお祝いのケーキが届き、家庭的な雰囲気の中で、盛大に言祝いだの様子が写真から窺えた。排泄の失敗に気づいた職員は、「ちょっと行こう」とさりげない言葉掛けをしたら、利用者は恥ずかしがったので、「それが俺の仕事だから、大丈夫だよ」と囁いたら、「ほな、してもらわなきゃいけないが・・・」という会話が聞こえてきて、家族のような雰囲気が施設を包み込み、醸し出していた。職員の朝の申し送りはリビングで行っていて、その様子は和気藹々として心が通っていた。その雰囲気が利用者にも派生し、利用者同士が笑顔で会話を楽しむ雰囲気が語らいていて、様子も窺えた。管理者の熱い思いが、職員や利用者にも伝わり、心に寄り添う介護ができていて、新たな我が家となったであろうということは、言うまでもない。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。運営委員会を設ける。	理念は事務所に掲示していて、月1回の職員会議で確認している。数ヶ月前に運営委員会を立ち上げ、施設をよりよくするために職員で話し合った。今月は「節電・節約」を目標としてチャレンジしている。新入職者には、本部研修の際に理念に触れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度。コロナ禍で町内イベントはほぼ中止されている。	町内会には加入していて、回覧板で情報を得たり、町内清掃に参加したりしている。町内会長や会計係には、直接神宮寺新聞を渡すことで情報の提供もしている。散歩中に幼稚園児と会った際には、笑顔で挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。 現在は休止状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になってからは書面会議のみだがお互いの取り組みを参考にしサービスの向上に活かしている。	会議には、地域包括支援センター、事業者指導課、家族代表、他のGH職員、町内会長が参加している。現在は書面開催で議事録と神宮寺新聞を郵送したり、直接ポストへ投函したりしている。コロナの状況や行事・イベントの結果報告をして、よく頑張っていると褒めの言葉を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は両ユニットの管理者。書類の内容の確認をしたら親切丁寧に教えてくれた。抗原検査キットを取りに行くこともあり face to face の関係が出来ている。外部の研修案内やコロナ対策、病気に関する情報提供も頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	身体拘束はしていない。研修では動画を視聴して、適切なケアができていないか、職員全員で意見を出し合うことで再確認ができた。スピーチロックが出た場合は、職員間で注意し合える関係もできている。「ちょっと待って」じゃなくて、「すぐに行くから」と言い直すようにしている。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やグループ全体研修などで勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。今後も必要とする方が出てくるかもしれないので制度について理解できる研修を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族からの意見は、SNSを通して聞くようにしている。SNSで撮った写真を家族に送ったら、様子がわかるので喜んで頂けた。コロナの状況をみて面会を再開するようになった。利用者から物品を購入したいという要望が上がり、家族の方へ伝えていて、利用者の些細な仕草や行動からも汲み取るようにしている。	目安箱を工夫して設置し、意見を吸い上げてみてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	年2回、両ユニットの管理者が面談をしている。職員とは、何でも言える関係ができていますので、職員会議でも意見が出やすい。消毒スプレーの数が少ないという意見が出て、数を増やしたことでコロナ対策にも繋がった。評価中にリビングでは、職員同士がお互いの意見を出し合いながら、申し送りをしている姿を評価員は目の当たりにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切に、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次のご家族へホームでの様子を電話で報告している。LINEも活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干し・たたみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会は継続しつつ状況を見ながら対面の面会を調整している。	訪問美容師の方が馴染みの関係となり、自分が作った作品をあげたら喜んで頂けた。リビングのソファが馴染みの場所となっていて、ゆったり寛いでいる方もいる。ZOOMや窓越し面会を実施していて、馴染みの関係継続ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら関わりを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられるよう努め、会話で気になったことは記録に残し、職員で共有している。	表情や仕草だけでなく、さり気ない日常会話からも読み取るようにしている。利用者の気持ちに合わせて、職員を変えて対応したり、決して無理強いはいないように配慮している。申し送りや連絡ノートを活用して、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院先の病院や通われていた同業者からも情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ半年毎に見直している。プラン作成時には、家族や本人の希望を聞くだけでなく、ドクターに相談することもある。リハビリがしたいという方には、散歩を多くするようにし、できるだけ部屋から出てほしい方には、リビングで過ごすようにして、プランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りで情報共有をしている。連絡ノートも活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの送迎・リハパン・トロミなどの買い物も職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。	かかりつけ医は、協力医に全員転医されている。24時間対応なので、安心して任せることができている。2名の診察医がいて、月1～2回の往診がある。週1回訪問歯科が来てくれて、口腔ケアをして頂いている。他科へは、常駐する看護師が連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前に電話でカンファレンスしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	看取りは実施していて、数名の方を看取った経験がある。入院していた方の希望により、施設に戻って来てケアをしたこともあった。、家族の方は、24時間対応も可能にしている、最期を無事に看取ることができたとの感謝の言葉を頂いた。職員会議にてデスクカンファレンスをして、意見を出し合っている。入居時に重度化した場合の対応についての同意も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議などで話し合っているが定期的には出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に職員の防災意識を高めている。年2回訓練を行っている。	年2回、夜間設定で火災訓練を行った。管理者は防災アプリにて、タイムリーな情報を得ることができている。連絡網は、電話の傍や業務日誌に挟んでいるので、すぐに取り出すことができる。リビングに、避難経路とマニュアルを掲示している。備蓄は、水を2～3日分、各階の倉庫に保管していて、冷蔵庫の食材がいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみたいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時も言葉に気を付け誘導を行っている。	呼称は、基本苗字に「さん」を付け。同姓の方には、家族の同意の上で、下の名前に「さん」付けで呼んでいる。入室時には、ノックや本人の了承を得てから入るようにしている。排泄失敗時には、さりげなく耳元で「ちょっと行こう～」や「確認させてもらっていい」と言葉を掛けて自尊心が傷つかないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	お米は施設で炊いていて、昼と夜がケイタリング。利用者からは「美味しいです」の一言が聞け、残食もほとんどない。箸、茶碗、コップは馴染みの物を使用している。誕生日の際には、お寿司や手作りケーキを振舞ったら喜んで頂けた。おやつ作りでは、ホートケーキやぜんざいを作った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し、栄養士とも話し合っってバランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせて食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのデータからトイレの声掛けを行ったり介助したりしている	トイレは各居室にある。排泄チェック表を活用して、タイミングよく言葉かけをすることで、失敗が減った。トイレというワードを使わず、「ちょっと歩こう」と言葉掛けをすることでスムーズな誘導ができています。排泄失敗時には、自尊心を傷つけないような言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	入浴は週2回で、同性介助をしている。入浴剤の使用や季節湯としてゆず湯の提供もある。拒否される方へは、人や日時を変えたり、「暖かいところへ行こう」や「ニューヨークへ行こう」との言葉を掛けるように工夫している。シャワー浴や足浴の提供もあり、脱衣所の温度調整もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している。	近隣の散歩やドライブに出掛け、春にはお花見に行った。正月には、神宮寺神社を奉り、初詣やおみくじを引くことで外出気分が味わえた。テラスの花に水やりをしたり、利用者同士で仲良く洗濯物を置んだりしている。外出に変わるレクも取り入れていて、言葉遊びや体操を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有時間は常に清潔を心掛けている。季節に応じた飾り付けなどで利用者様に今の季節を感じていただいている。一緒に飾りを作ることもある。	リビングでは、新聞、刺繍、貼り絵、ぬいぐるみ制作をして自分が好きなことをして過ごしている。気候のいい日にはテラスに出て運動をしたり、会話を楽しんだりしている。壁面は利用者と職員が作った作品を貼ることで、季節感が味わえるようしている。節分には鬼に扮した利用者と豆まきを楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考えて配慮している。	ベッド、クローゼット、トイレ、エアコンが備え付け。裁縫が好きな方の部屋は、手作りのチュールリップの作品が数多く並んでいた。家族やひ孫の写真を飾り、父の日や母の日のメッセージカードを大切に保管することで、家族を身近に感じることができている。ひ孫がプレゼントしてくれたメッセージプレートを大切に飾ってある部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない